

がん対策専門委員会

(令和元年度)

がん対策専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 がん対策専門委員会

委員長 杉山 一彦

I. はじめに

広島県では、昭和 54 (1979) 年からがんが死因の第 1 位となり、平成 30 (2018) 年には、総死亡者の約 3 割、年間 8,300 人以上ががんで亡くなっている。また、公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計'19」によると、生涯のうちにがんに罹患する可能性はおおよそ 2 人に 1 人とされている。本委員会は、県民のがんによる死亡率減少を図ることなどを目的として、平成 30 (2018) 年 3 月に広島県が策定した「広島県がん対策推進計画～第 3 次～」の柱の 1 つであるがん医療分野に係る、がん診療連携拠点病院の機能強化やがん医療水準向上、医療連携体制の強化等について検討を行ってきた。

今年度は、国指定・県指定がん診療連携拠点病院の機能強化やがんゲノム医療体制の構築に向けた協議を行った。

II. 国指定がん診療連携拠点病院の指定更新について

広島県では県内のどこに住んでいても質の高いがん医療を受けることができるよう、国指定がん診療連携拠点病院をすべての二次保健医療圏に整備し、令和元年度においては、11 施設が指定されている。

今回は、以前から申請があったものの要件未充足により推薦していなかった県指定がん診療連携拠点病院の福山医療センターを国指定として推薦するとともに、広島市民病院および福山市民病院を【高度型】として推薦し、国の「がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会」で承認された。

III. 県指定がん診療連携拠点病院の指定更新について

平成 22 (2010) 年から、広島県独自の取組として、がん医療水準の更なる向上を促すとともに、県民に安心かつ適切な医療を提供できる体制を強化するため、国指定がん診療連携拠点病院と同等の医療機能を有する施設を県指定がん診療連携拠点病院として指定し、医療提供体制の充実を図っている。

福山医療センターを除く県指定がん診療連携拠点病院に必須要件の未充足項目があったため、現状と対応状況について確認を行った。

IV. がんゲノム医療体制の構築について

これまでは、県内 6 つのがんゲノム医療「連携」病院が、「中核」病院の岡山大学と連携する体制となっていた。

しかし、令和元年度から新たな類型としてがんゲノム医療「拠点」病院が設けられ、広島大学病院が指定されたことに伴い、県内のがんゲノム医療体制が再構築されるため、全国的な動向も踏まえた情報提供が行われた。

V. おわりに

今後も広島県の医療の強みである地対協の枠組みを活用し、国指定がん診療連携拠点病院を中心とした医療連携体制の充実・強化を行うとともに、がんゲノム医療体制の構築や県指定がん診療連携拠点病院のあり方の検討をしていく必要がある。

広島県地域保健対策協議会 がん対策専門委員会

委員長	杉山 一彦	広島大学病院・がん治療センター
委員	粟井 和夫	広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学
	今井 茂郎	呉市医師会
	岡島 正純	広島市立広島市民病院
	岡田 守人	広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科
	角舎 学行	広島大学病院乳腺外科
	桑原 正雄	広島県医師会
	篠崎 勝則	県立広島病院
	高倉 範尚	福山市民病院
	田中 剛	広島県健康福祉局
	田中 信治	広島大学大学院医系科学研究科内視鏡医学
	茶山 一彰	広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学
	津谷 隆史	広島県医師会
	豊田 秀三	広島県医師会
	永田 靖	広島大学大学院医系科学研究科放射線腫瘍学
	平川 勝洋	県立広島病院
	本家 好文	広島県健康福祉局がん対策課
	三森 倫	広島市健康福祉局
	三宅 規之	広島県医師会
	安井 弥	広島大学大学院医系科学研究科分子病理学
	山田 博康	広島県医師会
	吉原 正治	広島大学保健管理センター